

SNSの利用状況とトラブルに関する調査

呉旭 (22111121ak@tama.ac.jp), 三溝凜 (22111168@tama.ac.jp)
伴昌優 (22111297@tama.ac.jp)

1. 研究の目的

本研究は、SNSの利用状況とトラブルに関する意識を明らかにすることを目的とする。

インターネットが普及した現代ではインターネット上のトラブル、line、Twitterなどで様々なトラブルが起これ問題となっている。SNSで不特定多数の人と交流する時間が増え、誹謗中傷問題が取り上げられるなど、トラブルの問題はますます大きくなってきている。その中でSNSの利用者は日々増え続けている。利用者の増加に伴い、SNSにおけるトラブルの発生件数も増えている。そのような状況の下、利用者はどのような意識でSNSを利用しているのか、どのような人がトラブルに遭いやすいのかをアンケート結果をもとに分析する。また、どのような意識を持つことがトラブル回避に繋がるのかをアンケートの分析結果から考える。

2. 調査方法

多摩大生にSNSやトラブル回避に関するアンケート調査を行った。マーケティング・データ分析の授業内で大学2年生以上の65名(男性60名,女性5名)に紙媒体のアンケートを配布し回答をしてもらい、その結果を単純集計、クロス集計などの分析方法を活用し分析する。アンケートは全25項目で間隔尺度などを用いて行った。また意識調査などもアンケートに組み込むことでSNSの意識を測った。

その結果合計65人からアンケートを回収した。回収率は94%である。

3. 結果と分析

アンケート結果の分析から、以下の点が明らかとなった。

①アンケート結果から、LINEとYouTubeの利用状況が最も多く、その次にTwitterとInstagramが多いということがわかった。このことからLINEは非常に身近なSNSだということが分かった。

②9割以上の学生がSNSを利用している。また、利用時間は約半数が4～5時間利用し、0～1時間利用している学生は3%とかなり低い水準になっていた。

③プロフィールに載せている個人情報の中で年齢が最も多く、次に名前が多かった。また、学校名と住んでいる地域の公開は流石に少なかった。

④トラブルに対する意識が高いと回答した学生は75%と多かった。しかし、15%の学生は当てはまらないと回答した。

⑤個人情報を載せないように心がけている学生が75%いるのに対し、37人(56%)もの学生が、何らかの個人情報をSNSに載せている。

⑥アカウントを非公開にしている学生の方が公開している学生よりも、トラブル回避に対する意識が高い。

4. 結論

本研究結果から、約75%もの学生がトラブルに対する予防意識は高いことがわかった。しかし、結果と分析の②にもあるように、意識は持っていても行動に移せていない学生が一定数いることから、そのような学生がトラブルに遭いやすいということが推測できる。

参考文献

熊本日日新聞,「SNSトラブル、5万件超 過去最多、20代が2割」2022,
<https://kumanichi.com/articles/682984>
(参照 2023-01-11).